



地域医療講演会を開催します

「知って安心 認知症」

～ 穏やかに暮らすための上手な付き合い方 ～

「家族が認知症になったらどうしよう」「自分が認知症になったら家族はたいへんだろうな」と不安に思っている人は多いと思います。そのときが来る前に考え、気持ちを整理しておくことが大切ではないでしょうか。今回の講演会では、認知症になった方だけでなく、ご家族やご近所の方々も穏やかに暮らすにはどうしたら良いかを、一緒に考えてみたいと思います。皆様のお越しをお待ちしております。

日時：平成29年7月7日（金）午後6時30分開場
 会場：小鹿野文化センター 1階 大会議室
 内容：○バンビちゃんの会 コーラス（午後6時45分～）
 ○講演「知って安心 認知症」（午後7時00分～）
 ○職員による寸劇「ご飯まだ!？」
 講師：小鹿野中央病院 総合診療科医師
 地域包括医療部長 内田 望



※入場無料ですので、大勢の皆様のご参加をお待ちしています。
 ※事前の申し込みは不要です。当日、会場に直接お越しください。

主 催：国保町立小鹿野中央病院・小鹿野町保健課
 お問い合わせ先：小鹿野中央病院 地域連携室 加藤
 電 話：75-2332

外来からのお知らせ

7月の休診

眼 科：7月 3日（月）沖坂Dr.
 婦 人 科：7月11日（火）小笠原Dr.
 総合診療科：7月18日（火）芦谷Dr.
 総合診療科：7月21日（金）大野Dr.
 婦 人 科：7月28日（金）矢野Dr.

※総合診療科、整形外科は複数の医師で担当しておりますので、当日の勤務医が診察を行います。



職員募集のお知らせ

職 種：看護師（正職員） 若干名
 受験資格：有資格者
 募集期間：随 時
 提出書類：履歴書・看護師免許の写し
 試験方法：作文・面接（随時実施）

職 種：介護職員（臨時職員） 若干名
 受験資格：介護職員初任者研修修了者
 （旧ホームヘルパー2級）
 募集期間：随 時
 提出書類：履歴書・修了証の写し
 試験方法：面接（随時実施）

④ 「がんと認知症」 忘れることは自己防衛本能？

ついさきほどまで「寒いですね」と挨拶していたのが、最近では「暑くなりましたねえ」「じめじめしますね」という言葉に変わりました。こうして一ヶ月があっという間に過ぎていきます。歳をとるものですね。

先日ある方が「最近、周りでがんになる人が多い」とおっしゃっていましたので、今回はがんと認知症について書いてみます。

70代後半のAさん。膀胱がんでした。とても意思が強く、周囲の意見は聞かず手術はしないと決めました。当然、徐々に病気が進行していきます。そのうちおしっこが出にくくなってきました。おしっこが出なくなるとは困りますので、尿道にカテーテル（管）を入れます。はじめは黄色いきれいなおしっこでしたが、病状の進行とともに、だんだん血尿が出るようになり、ついには血のかたまりでカテーテルがすぐに詰まるようになってきました。その度にカテーテルの中を洗ったり、カテーテルを入れ直したりします。

実はAさん、ほどよい認知症を患っていました。というのも、目立った症状は物忘れだけで、徘徊や妄想、不潔行為、介護への抵抗といった認知症の周辺症状は全くありませんでした。Aさんがお亡くなりになる数ヶ月前に、お祭りで一緒にお酒を飲んだことがあります。「先生、子供は何人かね」という質問に「4人いますよ」と答えると、「おー、それはそれは」と続きます。しばらくするとAさん、「ところで先生、子供さんは何人？」と聞いてきます。「それがね、4人居るんですよ」「おー、そうかい。それはそれは」。さらに数分後、「先生のところは子供さん何人いたかね」……。いまでもAさんが笑顔で尋ねてきたそのシーンを鮮明に覚えています。そんなAさん、病気は進んでいきますが、痛みや苦しさはほとんど感じることなく過ごされました。亡くなる数日前もご家族や友人と外食し、焼肉を食べてきました。最期まで笑顔でした。

Aさんだけでなく、認知症のがん患者さんをこれまで何人も見送ってきました。思い出してみるとほとんどの方が最期まで痛みを感じることなく穏やかに旅立たれた気がします。あちこちの骨に転移していた方、がんが腸を圧迫し最期は全く食べられなくなった方、肺がんから肺炎を合併した方。皆さん、医学的には痛みや苦しみがかなり出てもおかしくない状態であっても、案外平気な顔で過ごされていました。痛み止めなどの症状を緩和する薬も、比較的少なくてもよかったです気がします。認知症のがん患者さんは、身の回りに起こった出来事を忘れてしまうように、自分の痛みや苦しみも認知症のおかげで忘れられるんじゃないかと思えてなりません。もしかすると、無意識のうちに忘れるという自己防衛本能が働いているのかもしれない。



オードリー・ヘップバーンがこういう名言を残しました。

「幸福のこんな定義を聞いたことがあります。『幸福とは、健康と物忘れの早さである』ですって！わたしが思いついたかったくらいだわ。だって、それは真実だもの。」

また、私の先輩が、健康について

「健康」＝「病気」＋「元気」

と定義しています。病気があっても元気ならそれは健康だということです。がんがあっても、気持ちは元気に前向き、それでいて物忘れも早かったら、実はとっても幸福なのかもしれませんね。

嫌なことは忘れて、楽しかったことやいいことだけを覚えている、ある意味で「おめでたい人」、そんな人でありたいですね。

総合診療科 医師 内田 望

☆ 年に一度は「人間ドック」を受けましょう ☆

お問い合わせ：総合健診センター（病院内）

直通電話：72-7510



〈発行〉 国保町立小鹿野中央病院 〒368-0105 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野300番地

電話（代表）0494-75-2332 FAX 0494-75-3313

〈ホームページ〉「国保町立小鹿野中央病院」で検索、または「小鹿野町」のホームページからどうぞ。